

HOME>>最新ニュース一覧>>【詳細】

Kyoto Shimbun 2008年4月10日(木)

初任給「上げる」15% 08年京滋主要107社アンケート

京都、滋賀の主要企業107社を対象に京都新聞社が実施した大卒者の初任給に関するアンケートによると、今春採用の大卒者の初任給を2007年春より「上げる」と答えた企業は15.0%の16社にのぼった。就職活動で学生優位の「売り手市場」が続く中、より良い人材獲得に向けて初任給を上げるケースが多く、新卒者の採用でも激しい競争を繰り広げる金融機関の上げ幅の大きさが際立った。

今春の初任給を07年春と同じにする企業は50.5%の54社で、未定は22.4%の24社だった。大卒者の初任給額は20万円台が最も多く、回答企業(71社)の6割近くを占めた。最高額はロームの28万円だった。

新卒者の採用を活発化し、初任給を引き上げているメガバンクの動きに対抗するため、京滋の金融機関も初任給を上げている。京都銀行は07年春比17.8%増、滋賀銀行は同17.5%増で、いずれも20万5000円。びわこ銀行は同14.9%増の20万円とする。

2年連続で初任給を引き上げた滋賀銀行は「団塊の世代の大量退職もあり、優秀な人材を多数確保する必要がある。そのためには他行に見劣りしない水準が求められる」(広報室)と説明する。

電機や機械、化学メーカーなどの一部も増額している。同8.0%増の20万7800円に改めたオプテックスは「全体の給与改定の一環だが、売り手市場が続く中で20万円台にのせたかった」(人事課)。3年連続の引き上げで20万5000円の支給を予定する村田機械は「優秀な人材を得るには、他社と比べた際に注目してもらえる額でないといけない」(広報室)としている。

アンケートは2月下旬から3月中旬にかけて実施した。

